

P153

リスク回避における化学療法レジメンオーダーリングサポートシステム導入の有用性

大原 沙織、門倉 史枝、新川 実季、室井 綾香、由良 沙央理、佐野 隆大、
井上 智恵、村田 和歌子、西窪 奈津子、横田 聖子、織邊 聡、西尾 孝、
福井 英二

兵庫県立尼崎総合医療センター 薬剤部

【目的】平成 27 年 7 月に県立尼崎病院と県立塚口病院の 2 病院が統合し、新しく尼崎総合医療センターが開院された。旧病院では抗がん剤のスケジュール管理は紙媒体で行っていたが、新病院では化学療法レジメンオーダーリングサポートシステムを導入した。そこで今回システム導入の有用性について報告する。

【方法】未在 AD システムズの化学療法レジメンオーダーリングサポートシステム CROSS を利用し、注射薬及び休薬期間がある内服薬の抗がん剤投与管理を行うこととした。登録されたレジメンを個々の患者にコース毎に適用し、休薬期間中に次のコースや他レジメンを適用できないようにした。また投与量の上限を設定し、これを上回る投与量はオーダ不可とした。レジメン登録するにあたって各抗がん剤の希釈液、支持療法薬を統一した。更に他院で投与されたものも含め生涯投与量を管理するシステムを導入した。

【結果】旧病院では医師から提出されたスケジュールと処方との照合が必要であったが、システム導入後は不要となった。また紙媒体ではスケジュール変更時の修正に手間がかかっていたが、化学療法レジメンオーダーリングサポートシステムでは薬剤師の作業が不要となった。システムを導入することで、抗がん剤を誤って選択することや支持療法薬のオーダ漏れが無くなった。内服抗がん剤については過去の薬歴から休薬期間等を確認する必要があったが、システム導入後は注射薬と同様にシステムで休薬管理ができるようになった。

【考察】レジメン登録時に輸液、支持療法薬やその投与時間を統一することで、化学療法に伴う薬剤師の無菌調製及び看護師の投与業務の標準化が図れ、リスクが軽減したと考える。化学療法レジメンオーダーリングシステムの導入はより安全な抗がん剤治療に有用であることが示唆された。